

- ビッグデータの特徴については、データの利用者やそれを支援する者それぞれにおける観点から異なるが、主に、多様性、リアルタイム性、多量性等が共通した特徴。

## データを利用する者の視点から捉えた特徴(例)

[参考] 鈴木構成員説明資料(第4回)

- ☞ 個別に、即時に、多面的な検討を踏まえた付加価値提供を行うという観点において、事業に役立つ有用な知見として活用されるデータの特徴は、例えば、次の3つのとおり。

<b>高解像</b> 事象を構成する個々の要素に分解し、把握・対応することを可能とするデータ	<b>高頻度</b> リアルタイムデータ等、取得・生成頻度の時間的な解像度が高いデータ	<b>多様性</b> 各種センサからのデータ等、非構造なものも含む多種多様なデータ
---	--	--

- ☞ 以上により、結果として、ビッグ(大きな)ボリューム(量)のデータが必要(多量性)

## データの利用を支援する者の視点から捉えた特徴(例)

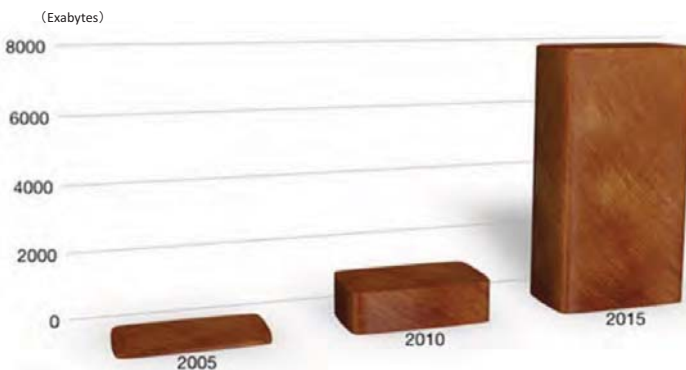
[参考] 日本アイ・ビー・エム説明資料(第2回)  
 エヌ・ティ・ティ・データ説明資料(第4回)  
 インテル説明資料(第5回)

- ☞ 以上のようなデータの利用者を支援するサービスの提供を行うという観点において、同サービスが対応可能なデータの特徴は、例えば、以上の多量性も含み、次のとおり。

<b>多源性</b> 複数のデータソースにも対応可能	<b>高速度</b> ストリーミング処理が低いレイテンシで対応可能	<b>多種別</b> 構造化データに加え、非構造化データも対応可能
-------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------

- 国際的なデジタルデータの量は、2011年の約2ゼタバイト(2兆ギガバイト = 2千エクサバイト)から約4倍増加し、2016年には約8ゼタバイトへ拡大する見込み。
- ビッグデータの活用により、例えば、米国ヘルスケアで年間3千億ドル、EU公共セクターで年間2.5千億ユーロ、位置情報データの活用により年間6千億ドルの消費者価値創出等が期待。

## 10年間のデジタルデータの成長



## いわゆる「ビッグデータ」の定量的価値(例)

50億台の携帯電話が使用(2010年)

300億のコンテンツが毎月Facebook上で共有

IT費用の5%増加で、年間40%増のデータ創出

米国のヘルスケアでは年間3000億ドルの価値創出が期待(スペインの年間ヘルスケアコストの2倍)

EUの公共セクターでは年間2500億ユーロの価値創出が期待(ギリシアのGDPを超える)

個人の位置情報データを活用することで年間6000億ドルの消費者価値創出が期待

小売の営業利益に60%改善の見込み

[出典: IDC「2011 Digital Universe Study: Extracting Value from Chaos」(平成23年6月)]

[出典: McKinsey Global Institute「Big data: The next frontier for innovation, competition, and productivity」(平成23年5月)]